防災の日特集　4～6面特集

BCP対策が急務

府中北市民病院

コアシステムズの連絡・安否確認システムを導入
常日頃から活用し災害に備える

府中北市民病院（広島県府中市、中井訓治院長）は、ソフトウェア開発を手掛けるコアシステムズ（広島県福山市、都築邦昭社長）の病院スタッフ向け連絡・安否確認システム「ラインネットーホスピタルエディション」を導入し、災害に備えている。同システムはスマートフォンなどの携帯端末を活用し、医師や看護師ら医療従事者への連絡業務および災害時の安否確認を効率的に行うもの。同院では同システムをコミュニケーションツールとしても活用し、メール送信回数は年間約200件に及ぶ。常日頃から使用することで、いざというときにもスムーズに職員の安否確認ができるよう心掛けている。

府中北市民病院（広島県府中市）の外観

関岡主査

福原主任主事

府中北市民病院（60床）は、広島県東北部の中山間地域に立地する。半径30キロ以内に病院はなく、診療所もほとんどないため、この地域の外来・入院・在宅医療を一貫して担う病院完結型医療を提供している。災害時ともなれば地域の傷病者が運び込まれ、避難者が同院を頼り訪れることも想定され、「いざというときに患者を受け入れなければならないという意識を職員は持っている」と同院の関岡孝弘主査は話す。

導入のきっかけは「平成30年7月豪雨」

病院スタッフ向け連絡・安否確認システムを導入したきっかけは、西日本を中心に全国的に大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」。当時、職員との連絡手段は電話のみ。連絡網を作成することだけでも大変で、「電話以外の手段の必要性を感じていた」と同院管理係の福原宏樹主任主事は話す。

実際、平成30年7月豪雨では被災した職員もいたが、出勤可能な職員の確認など、朝から電話連絡を開始して、最終的に全員の安否確認が取れたのは午後になってからで、災害時の診療体制を整える上でスピードが遅いことを痛感したという。それ以降も全国的に大規模災害が相次ぎ、必要性をさらに強く認識するようになった。

誰でも使えるメールを利用

システムの導入に当たっては、「LINEのようなアプリも検討したが、ガラケーを使用している職員もおり、誰でも利用できる手段としてメールを選択した」と福原主任主事。検討の結果、2021年12月にコアシステムズのメールシステムを導入した。

同システムは、内科、外科、小児科などの診療科や、医師、看護師、事務員などの職種、所属する委員会ごとに細かく分類してメールを送信し、回答の有無や回答の内容を一覧で示すことができる。

機能には、登録者全員または分類ごとの一斉連絡▽登録者への安否確認▽事前に登録されたメンバーの緊急召集連絡▽会議などの出欠確認▽複数項目への回答を求めること▽だれが見ていないかを確認できる未開封確認ーがあり、登録や分類の変更は、職員自身で行うため、病院側でアドレスを集める必要はない。認証パスワードも設定可能で、登録方法の雛形も用意している。登録者のメールアドレスや電話番号は要望に応じて見えなくする設定も可能だ。

導入の決め手は「シンプルさ」

同院が同システムを導入した決め手はシンプルさ。具体的には、「受信する側の登録に当たってQRコードを読み込んで空メールを送るだけ。システム導入の際に登録の仕方が分からないため職員のサポートが必要になることがよくあるが、このシステムについてはほとんどそうしたことはなかった」と福原主任主事は振り返る。

災害訓練やコミュニケーションツールに

導入後、幸い災害はなく、災害訓練のほか、職員のコミュニケーションツールとして同システムを活用し、様々な効果が挙がっている。

災害訓練については、「メールの開封状況の確認ができるため、一目でどの職員と連絡が取れていないのかがわかるのが有効だ」と関岡主査。開封しない職員に対しては、訓練結果を各部署にフィードバックし、見てもらうよう促している。

一方、コミュニケーションツールとしては、院内研修の案内、機器のメンテナンスや設備の工事の予定など全体的なアナウンスのほか、グループ別の会議の召集などの連絡に活用している。

こうした情報の提供はこれまで紙ベースで行われており、印刷して各部署に配布して回覧する手間がなくなり、業務負担軽減にもつながっている。関岡主査は「紙による部署回覧は全員が見たかどうかはわからないが、メールの場合は、発信者側として確実に届けることができ、受け取る側も各自が都合に応じて見直すこともできる」と、その効果を実感している。

同院では、同システムを通じて全職員や特定のグループに情報発信を行っており、その数は1ヵ月間で十数件、年間約200件に上る。関岡主査は「普段から使用し、見る機会も増やしている。いざというときに備えたい」としている。

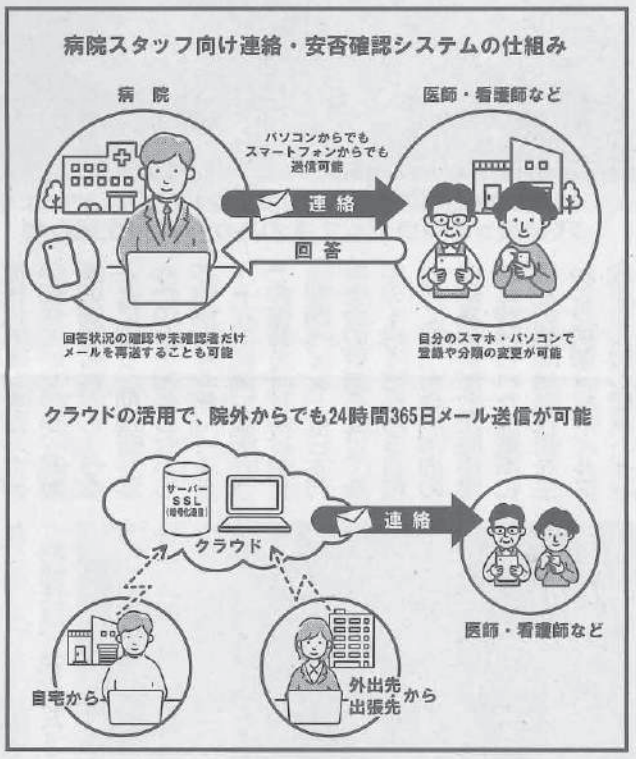
サポートやセキュリティー体制を整備

同システムのサポート体制としては、職員からの使い方の問い合わせなどにコアシステムズの専任のスタッフが対応するフリーダイヤルのサポートセンターを用意している。

セキュリティー体制として同社は、2005年にプライバシーマーク（Pマーク）を取得し、現在も更新を継続している。

また通信されるデータを暗号化（SSL通信）しハッキングやデータの改ざんに対しても万全の体制を敷いている。さらに不測の事態に備えて個人情報漏洩保険にも加入済だ。

同システムの価格は、初期設定費の3万3000円（税込、初回のみ）と、毎月定額の月額利用料1千名まで1万6500円（税込）、1001～2千名が3万3000円（同）となっている。



タカコム

緊急地震速報を低コスト・簡単設置で導入できる
緊急地震速報受信機など提案

タカコム（岐阜県土岐市）は、ワイドFM対応で受信エリア拡大、緊急地震速報を低コスト・簡単設置で導入できる「緊急地震速報電話ページング装置EDR-200A」、電話音声＋メール で確実・迅速に担当者へ緊急通知できる「緊急情報伝達システムおつたえ君ARS-900」を病院に向けて提案する。

◎緊急地震速報電話ページング装置EDR-200A

EDR-200Aは、FMラジオ放送受信でランニングコストが不要な緊急地震速報受信機である。既存設備を利用してコストを抑えての導入が可能、独自アナウンスで適切な避難誘導をサポートする。主な特長は次のとおり。

▽FMラジオ放送受信でランニングコスト不要＝民放FMラジオ局およびNHK-FMラジオ局から放送される「緊急地震速報」のチャイムを受信して、地震の発生を知らせる緊急地震放送を行う。一般向け緊急地震速報を放送。既設の交換機を利用して構内放送を行うことで、導入が簡単でコストを抑えられる。

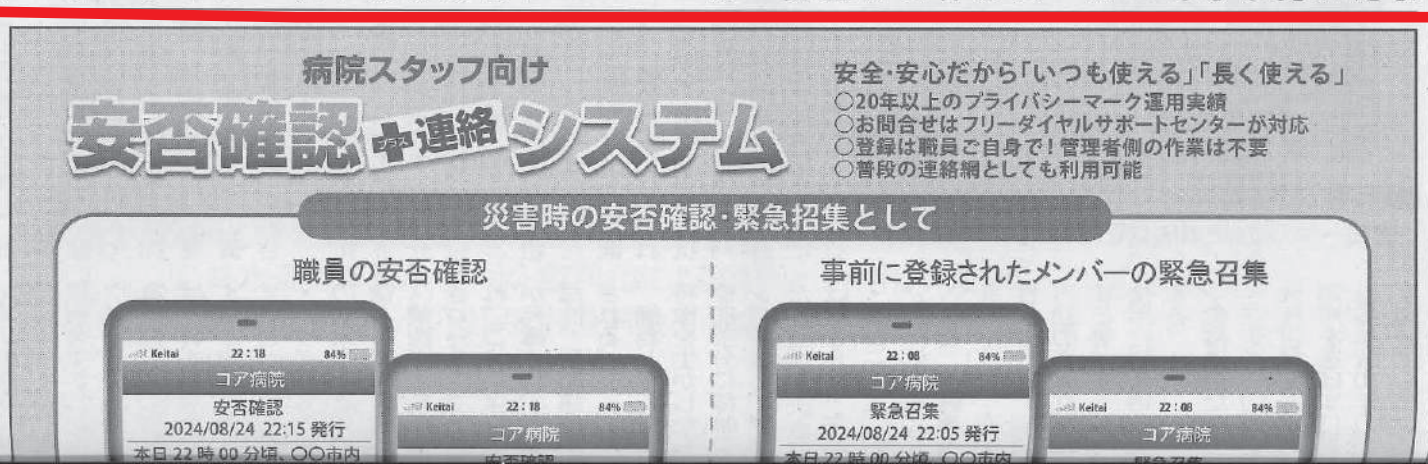
▽放送内容は「ラジオ放送」「アナウンス放送」から選択＝緊急地震放送には、FMラジオの音声を送出する「ラジオ放送」、あらかじめ同装置に録音されている「固定アナウンス」、任意で録音する「独自アナウンス」のいずれかを選択できる。ラジオ放送または固定アナウンスを利用することで、接続してすぐに確認ができる。

◎緊急情報伝達システムおつたえ君ARS-900

おつたえ君ARS-900は、音声およびメールで確実に緊急連絡が通知できる緊急情報伝達システムである。主な特長は次のとおり。

▽通知内容・通知先登録はパソコンで簡単操作＝電話通知用の音声メッセージは、パソコンで作成できる。テキスト入力でメッセージを作成する「音声合成」、パソコンに接続したマイクなどの録音機能を利用して録音する「録音」の方法から選択できる。

▽通知起動や動作など用途に応じて選択可能＝通知起動は、パソコン・本体・外部スイッチ・外部接点などで操作できる◇通知方法は、通知の都度、状況に応じて、「ワンタッチ通知」「ワンタッチ録音通知」「マニュアル通知」「外部起動信号通知」の方法から選択できる◇通知時の動作は、「追っかけ通知」「再通

全石連

「満タン&灯油プラス1缶運動」